

心聖会 広報誌

発行：社会福祉法人 心聖会
 広報委員会
 発行責任者：吉村 優児
 URL <http://www.e-shinseikai.or.jp/>

(法人事務局)

〒276-0001

千葉県八千代市小池393

TEL 047(488)8222 FAX 047(488)8229

広報こいけ

経営理念

わたしたちは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支えることを職員の幸せとして事業に取り組みます。

- ・障害のある人の人格と個性を尊重します。
- ・障害のある人が安心して豊かな地域生活を営めるよう支援します。
- ・障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます。



大寒波に見舞われた冬が過ぎ、暖かい陽気の季節を迎え、ご利用者、職員ともに新しい気持ちで新年度をスタートすることができました。これも一重に、日頃から関係各所の皆様のご理解・ご支援をいただいている賜物と心より感謝申し上げます。

「どんな鳥も想像力より高く飛べる鳥はいない」と、人の想像する力の素晴らしさを唱えたのはかの寺山修司です。しかし、私たちが「想像」したつもりでいることは、それまでに得た経験からの比較でしかなく、「自分目線」の域を出ていないことが多くあるのではないのでしょうか。自身にはない視点で世界を見ることが想像力であり、物事の先行きや相手を推し量る力を広げることが、支援力の向上や働きやすい職場環境、ひいては差別や虐待の解消といった社会的な問題解決につながっていくことだと理解しつつ、日常の中では視野が狭まってしまいがちです。

小池更生園、そして心聖会に所属する様々な経験・経歴を持ったご利用者と職員が、心地よい時間をともに過ごすために、自分の立場からできることは何なのかを考える日々です。この場所が、ご利用者と職員それぞれが持つ多種多様な力を発揮でき、それぞれに居心地のよい場所になるよう、想像力を働かせ、挑戦することをあきらめず努力していきたいと思えます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉法人心聖会 小池更生園 課長

富田 佳奈子

新年度の抱負

小池更生園 吉田航



入職9年目になる今年、私は新年度の抱負として「支援や活動の意義を再確認する」ということを掲げました。日々ご利用者と関わる中で、ひとつひとつの支援に理由や目的があることを再認識しなければならぬ場面にたびたび直面します。なぜ今そうした支援が行われているのか、その経緯を紐解いていくと、より効果的な支援方法や、現在のご利用者の心身に適した支援の環境を発見することができ、改善につながることも珍しくありません。ひとつひとつの支援方法を再確認することで、より良い支援が可能になるのだと、改めて認識した次第です。自分自身の支援に対する姿勢や業務に対する姿勢を丁寧に見直すことで、目的意識を持った支援に努め、その改善に励んで参ります。

小池更生園 伊藤聡真



昨年度、私は介護福祉士の資格試験に挑戦しました。支援の技術や知識が進歩する一方で、ご利用者が置かれている社会的な状況は刻々と変化しています。さらに、ご利用者の高齢化や、記憶に新しい新型コロナウイルス、昨冬に起きた近年最大規模のインフルエンザの流行など、ご利用者の心身が大きな影響を受ける事態をも、今後は想定する必要があると実感しています。資格試験で得た知識を活用し、専門知識を日々深めることで、ご利用者をとりまく社会環境の急激な変化に対応することができ、職員になることを目指します。そのためには、職員同士のコミュニケーションや現場での連携、そしてご利用者やご家族との信頼関係の構築にも注力し、また自分自身の健康管理やストレスコントロールにも注意する等、職場の内外、そして自分自身の内外、双方での努力を続けることで、この目標を達成したいと考えています。

作山更生園 高野愛咲美



作山更生園、そして心聖会に入職して、早いもので4年目を迎えました。年度が変わるごとに自分を取り巻く環境も変わり、焦りや不安を大きく感じることがあります。その中で、私が入職当時から大切にしていることは、「ご利用者に安心感を与える存在となること」です。ご利用者の皆様は、こちらが思っている以上に職員のことをよく観察され、些細な変化を敏感に捉えていると感じます。わたしたち職員がご利用者に伝える言葉や表情、話すペース、視線の高さなど、些細なことではあります。そのひとつひとつに気を配るような心がけています。明るく活気に溢れる作山更生園ですが、今年度もご利用者から職員へ、職員からご利用者へと笑顔が繋がるような、和気あいあいとした場所でありたいと思っています。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

こいけホーム 飯塚直樹



私の新年度の抱負は「初心に帰る」です。新卒で心聖会に入職し、早8年が過ぎました。ご利用者やご家族・関係者の皆様とのかかわりや日々の支援のなかで多くのことを学び、成長を実感する機会も多くなりました。一方で、中堅の立場になったことで、好ましくない「慣れ」が生じる事も危惧しています。そのきっかけとなったのは、先日、旅行で観光地を巡る途すがら、外国の方と話をする場面に遭遇したことです。相手は日本語や英語に不慣れなので、身振り、手振り、カタコトの言葉などでコミュニケーションを取りました。そのとき、ふと、発話が難しいご利用者を支援した際のことを思い出し、最近の私は、経験によりご利用者の理解が深まったと思いきや、全てを分かた気になっていたのでないかと自問しました。今年度は初心を思い出して、ご利用者に対する更なる理解や、ご利用者との関係性を深めたいと考えています。

小池更生園便り

新任職員研修のご報告

小池更生園

支援員 石阪賢人

昨年12月に小池更生園へ入職した、新任職員の石阪賢人と申します。業務では、ご利用者の皆様とのかかわりの中で、日々学びを深めております。今回、新年度を迎え、「新任職員集中講座」を受講することとなりました。3日間に渡る本講座では、「法人の経営理念」「ご利用者が快適に過ごせる環境づくり」「障害福祉サービスについて」「災害・疾病蔓延などの有事への対応」等、業務に関する様々な内容を学ぶことができ、生活支援員としての最初の一步を踏み出したのだと実感しました。受講後は、今回の講習で得た学びの一つ「ご利用者が快適に過ごせる環境づくり」のため、整理整頓や清掃業務に力を入れていきたいと決意しました。ご利用者・ご家族そして私たち職員が気持ちよく過ごせる施設になるよう、日々尽力いたします。

八千代翼友福祉会様

法人研究発表会のご報告

小池更生園

支援員 鈴木亮

2月22日、社会福祉法人八千代翼友福祉会主催の法人研究発表会に参加し、知見を深めることができましたのでご報告いたします。同法人は昨年度より、障害者支援に関する研究発表会を外部公開することで、研究内容の深化、そして地域福祉の向上に寄与されております。今回、印象的だったのは、全国障害者問題研究会の瀧川恵里子氏と、元県立特別支援学校教員・佐藤優子氏の講演で触れられた「できるとわかるは違う」というお言葉です。私たちの声かけに対するご利用者の反応だけを見て、ご利用者がその意図や内容まで理解されていると判断するのは早計で、実際には習慣づけられた反応に過ぎず、課題を抱えたままであることも少なくありません。そうした課題の仮説立てとその検証を繰り返すことで、丁寧な支援を重ねることの重要性を再認識いたしました。

にぎわいバザーに

参加しました

小池更生園

支援員 田村直毅

3月22日、印西市の木下駅前になぎわい広場にて開催された「にぎわいバザー」に初めて参加しました。

当日は風が強いながらも快晴に恵まれ、11時を過ぎた頃から徐々に客足も増えていきました。12時からは地元の小中学生たちによるのダンスイベントがあり、販売のブースからいなくなってしまうほどの人気ぶりでした。

メイソンのバザー販売については園で自家焙煎を行った「ピッコロスターニョコーヒー」の評判が大変高く、見事完売となりました。お客様の中にはリピーターの方もおり、そのお味にご満足いただけている様子でした。

ご利用者の社会参加のほか、園での活動を広く知っていただく機会となりました。



バレンタインデーは

チョコでデコ!

小池更生園

支援員 鶴岡秀和



2月11日、バレンタインデーが近いということもあり、余暇活動の一環として、クッキーにデコレーションを行うイベントを企画しました。本格的に手作りするのでなく、今あるものに少しだけ手間を掛ける、いわば「チョコっと手づくり」のお菓子づくりです。参加したご利用者の皆様には、クッキーの上にも市販のチョコペンで好きな模様や絵を描いていただきました。

皆様すぐにコツを掴まれて、笑顔でデコレーションを楽しまれていました。完成品を召し上がったご利用者の皆様から「おいしかった!」や「楽しかった!」というお声を聞き、今後も、こうした広く楽しんでいただける余暇活動を企画したいと改めて感じました。



作山更生園便り

作山更生園新年会

オリジナルうちわ

松の内の賑わいも過ぎ、いつもの街並みへと戻りだした1月16日、作山更生園では毎年恒例の「新年会」が開催されました。

午前中は、制作活動の一環として「福うちわづくり」が催されました。新年を祝う熊手をイメージして、ご利用者ひとりひとりがオリジナルのうちわを作りました。熊手には「福をかき集める」という意味があり、

お多福や入船などの装飾によって、よりにぎやかな雰囲気になります。干支のヘビの飾りや小判、だるま等を思い思いに貼りつけたうちわを、1枚の紙に集めて飾り付けると、壮観かつ個



思い出になるうちわを作成！



美味しいお寿司を頂きました

性が光る、新年にふさわしいひとつの作品になりました。福うちわを手にしたご利用者の皆様からは笑顔とともに歓声が上がするなど、例年以上の活気を感じることができました。

「お寿司&ドリンクバー」

昼食では皆様楽しみにされていたお寿司と豚汁に加え、ドリンクバーのスタイルで各種ジュースを提供することで、新年会をよりいっそう引き立てる、特別感のあるお食事となるよう工夫しました。特に、マグロの握りが一番の人气で、皆様最初に箸をつけていたのが印象的でした。ドリンクバーも大変好評で、ご利用者の皆様に楽しんでいただける一日になりました。

引き続き、安全と楽しさを両立できるように、尽力してまいります。

「あおぞら班外出」

あおぞら班は成田ゆめ牧場へ行ってきました！動物とのふれあいや、自然の中でのびのびと過ごせる、楽しさいっぱいの観光牧場でした。日々の食生活に欠かせない牛乳を皆さんにお届けしてくる、つぶらな瞳の乳牛たち。乳搾り体験では、動物に直接ふれあうことで、柔らかいモフモフの毛から、そのぬくもりを感じました。そして成田ゆめ牧場といえば、美味しいスイーツです！特に人気のあるアイスクリームは、牧場の新鮮な牛乳を使って、自然の素材を生かした旬の味覚のフレーバーをみんなで美味しくいただきました。おもいっきり身体を動かしてリフレッシュ&動物や自然にふれあい、癒されて、成田ゆめ牧場を堪能いたしました！



「ゆめこちゃん」と記念撮影

「ひまわり班外出」

2月26日に市川市動植物園へ外出しました♪ひまわり班は女性ご利用者9名で編成された作業班で、お出かけが大好きな方ばかり！「みんなで出かけた」という声で以前から聞かれており、ようやく実現した今回の外出。出発前から、「どれ着ていく？」「ぬいぐるみ買いたい！」など、期待の声が上がっていました。園内の散策では野鳥やレッサーパンダ、アルパカなど様々な動物たちを見ることができました。特に園内中央に立つ猿山には、皆さん釘付けになっていました。最後はお土産ショップでのお買い物。何を買うか皆さん迷われていましたが、それぞれのお気に入りを見つけ、良い思い出のひとつとなった外出でした。



お出かけ日和でした♪

こいけ障害者
支援センター便り



実り多き一年に

3月、八千代市の島田台農園でいちご狩りを行いました。ブルーベリー狩りも楽しめるこの農園は、ご利用者にとっても楽しみながら安心して過ごすことのできる地域の場所となっております。農園の方から、いちごを茎からきれいに取る方法をレクチャーしていただき、多く実ったいちごを食べ、新年度に向けて英気を養うことができました。新年度、本事業所では、昨年度に続き2チーム編成で活動に取り組んでまいります。高齢化



いざ、いちご狩りへ



ハウス内にて

の進むチーム・ミントでは、身体機能の維持や向上、フレイル予防を図るなど健康に配慮した活動を提供いたします。20代のご利用者が多く所属するチーム・ベリーでは、体を存分に動かすことができるよう、屋外での活動を中心に提供してまいります。

地域社会とつながりを持ちながら活動に取り組むこと、豊かな人間性や社会性を育めるように支援していくことを事業所の目標に掲げております。チーム間で協力し合い、時には切磋琢磨しながら、ご利用者にとって実り多き一年となるよう、尽力してまいります。本年度もどうぞよろしくお願い致します。

こいけホーム便り

お花見て春を感じて…

3月9日、「こいけホームお花見イベント」と銘打って、成田ゆめ牧場で楽しい休日をお過ごししました。この日は積雪した前日から一転、眩しいほどの太陽の光が降り注ぎ、絶好の行楽日和となりました。期待高まる一行を乗せたバスは予定通り、一時間弱で成田ゆめ牧場へと到着。お昼にカレーが用意されている以外は、気分次第の自由行動。すべてご利用者ご自身で決めていただきます。支援員はサポート役に徹し、ご利用者の要望を聞き漏らしたり見逃したりしないよう、



満開の桜の下で記念撮影

いよう、細心の注意を払いました。梅の花や菜の花があちこちに咲き誇り、「見て！お花きれいだよ！」と、春を身近に感じる癒しのイベントとなりました。

節分だ！豆まきだ！

2月16日、少し遅めの節分会を実施しました。邪気（鬼）を払い、福を呼び込む。季節を感じる行事は、絶対に外せませんよね。さあ皆さん、鬼（のお面を被った支援員）に向かって豆をまき、無病息災を願いましょう。

力いっぱい投げた豆を鬼に何度も命中させる方も居れば、鬼に当たるのは忍びないと床に投げ方、投げずに大切に食べる方、ご利用者の個性が遺憾なく発揮された節分会となりました。



鬼は外～！福は内～！

法人だより

新任職員紹介

新年度を迎え、この春より各事業所に入職した職員をご紹介します。

- ①名前 ②出身地 ③好きな言葉

小池更生園



- ①武藤 優美 (むとう ゆうみ)
- ②千葉県白井市
- ③一日一笑



- ①高木 梨菜 (たかぎ りな)
- ②北海道
- ③有言実行



- ①烏野 真人 (うの まこと)
- ②千葉県習志野市
- ③縁の下の力持ち



- ①石阪 賢人 (いしがき けんと)
- ②神奈川県座間市
- ③臨機応変

作山更生園



- ①清田 麻里彩 (きよた まりあ)
- ②千葉県船橋市
- ③表裏一体



- ①小暮 菜月 (こぐれ なつき)
- ②埼玉県飯能市
- ③共在共栄



- ①水口 敦也 (みずぐち あつや)
- ②千葉県茂原市
- ③人に優しく、思いやりを忘れない

こいけ障害者支援センター



- ①秋原 準平 (あきわら じゅんぺい)
- ②千葉県鎌ヶ谷市
- ③凡事徹底



- ①小倉 雪乃 (おぐら ゆきの)
- ②千葉県成田市
- ③笑う門には福来る

異動職員のお知らせ



- 《小池更生園》
- ・高橋浩太郎(前・こいけ障害者支援センター)
- ・渡邊 静香(前・こいけホーム)
- 《こいけ障害者支援センター》
- ・出井 智貴(前・作山更生園)

編集後記

20年続けているランニング。1日1回、走らないとソワソワするような体になってしまいました。走るきっかけは、職場の同僚がマラソン大会に誘ってくれたこと。苦しい、でも気持ちいい。ゴールした時の達成感、感動：これは何だ。ランニング、最高じゃないか。そんな私ですが、子供の頃のマラソン大会では、走っている途中でお腹が痛くなり、ただただ苦しかったことが思い出されます。今では、人生の楽しみが増えたこと、きっかけを与えてくれた同僚に感謝。新年度が始まり、職員それぞれ抱負が語られました。心の中の決意を言葉にすることも、一つのきっかけ。とは言うものの、新しいことを始める、続けることの難しさ。我慢したり無理をしない、簡単なことから始める、心に余裕を持つ、一歩進んで二歩下がるもよし。続けることで、何かが変わっていく。あの時のきっかけが、振り返ってみれば大きな転機だった。新年度、賽は投げられた。行動あるのみ。